

MySQL 5.1.71 リリースノート（日本語翻訳）

機能の追加と変更

- MySQL 5.1 または 5.5 では新しいエラーが凍結されるため、**comp_err** でこれらのシリーズに新しいエラーが追加されていないことを確認するようになった（Bug #16807394）。

修正されたバグ

- **InnoDB**: 挿入バッファマージ時、無効な可能性があるレコードポインタで InnoDB が `lock_rec_restore_from_page_infimum()` を呼び出していた（Bug #16806366）。
- **InnoDB**: `page_zip_compress()` で、ページの圧縮後、`page_zip_validate()` 一貫性チェックが失敗していた。この問題は、レコードにユーザデータバイトが含まれない場合に、`page_zip_decompress()` が `heap_no` を正しく設定できないことが原因であった。ユーザデータバイトがないレコードは、たとえばプライマリキーが空の文字列で、すべてのセカンダリインデックスフィールドが NULL または空の文字列である場合に発生する（Bug #16736929）。
- **InnoDB**: 初期化されたが使用されていない `pthread_mutex`、`commit_threads_m` がコードベースから削除された（Bug #60225、Bug #11829813）。
- **パーティショニング**: パーティションドテーブルをドロップした場合、テーブルの定義やデータの前に、まずテーブルの `.par` ファイルが削除されていた。これは、ドロップ操作中にサーバに障害が発生した場合、テーブルが矛盾状態のままとなり、アクセスもドロップもできなくなることを意味する。

この問題を修正するために、以下の変更を行う。

- パーティションドテーブルをドロップする場合、すべてのテーブルデータが削除されるまで、テーブルの `.par` ファイルが削除されないようにした。
- パーティションドテーブルの **DROP TABLE** の実行時に `.par` ファイルが見つからないことが判明した場合、テーブルの `.frm` ファイルが直ちに削除され、ドロップを強制的に終了させるようにした。

(Bug #13548704、Bug #63884)

- まだ共有互換 RPM がインストールされていない状態でも、RPM インストール操作で共有互換性競合エラーが発生していた (Bug #16678122)。
- プリペアドステートメントの実行時に参照されるユーザ変数は、実行終了時に解放されるメモリに設定される。このステートメントをもう 1 度実行した場合、このメモリにアクセスする際に Valgrind 警告が発生する可能性があった (Bug #16119355)。
- プリペアドステートメントの左の式の間違った最適化により、サーバが終了する可能性があった (Bug #16095534)。
- **Prepared statement needs to be re-prepared** (プリペアドステートメントを再度プリペアする必要がある) エラーの発生後、**DECIMAL** カラムへ挿入すると、サーバが停止していた (Bug #12608543)。
- サブクエリの結果をユーザ変数に割り当てる場合、外部クエリに **DISTINCT** と **GROUP BY** が含まれていると、表明が発生していた (Bug #57196、Bug #11764371)。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。